

# 神奈川大学三浦半島宮陵会だより 第23号

発行者: 神奈川大学三浦半島宮陵会 企画・広報委員会  
事務局: 横須賀市浦賀丘2-8-19 Tel:046-843-0600

2017年3月12日発行

## 平成29年新年会・記念講演会開催

記念講演会と懇親会の2部構成で行われた平成29年神奈川大学三浦半島宮陵会の新年会が1月29日(日)、セントラルホテル横須賀で開かれ、会員ら71人が集まった。

記念講演会に先立ち、鈴木和夫三浦半島宮陵会会長(昭和46年法律卒)が、箱根駅伝の報告会の模様等、ユーモアを交えながら挨拶を述べた(内容は別掲)。

引き続き行われた記念講演会は、前宮城県知事で神奈川大学特別非常勤教授の浅野史郎氏が「運命に生きる〜闘病が開けた人生の扉」と題して、ご自分の体験に基づく講演をしていただいた(記念講演会の要旨は3頁)。

今回も新聞記事で会員以外に聴講を呼びかけたところ、浅野先生の知名度から、関心のある地域の人々が21名来場し、会員とともに熱心に耳を傾けた。



2017年三浦半島宮陵会新年会 於セントラルホテル横須賀 1.29

懇親会は源代克さん(昭和36年貿易卒)の乾杯の音頭で始まった。

今回は大学や宮陵会本部からの来賓の参加は無かったが、箱根駅伝と一緒に応援している「保土ヶ谷・旭区」や「戸塚・栄区」、「南区」、「藤沢」、「秦野」等の県内各宮陵会の皆様も来場され、



## 鈴木和夫会長の挨拶



お集まりの皆様、新年おめでとうございます。三浦半島宮陵会の皆様、1月2日・3日はJR保土ヶ谷駅前での箱根駅伝の応援、ご苦労様でした。

先日1月17日は「箱根駅伝の報告会」が神大横浜キャンパス2

号館であり、総合5位、12年ぶりのシード権獲得で会場も盛り上がりました。特に花の2区で区間賞を取った鈴木健吾君は、写真撮影で引っ張りだこでした。

報告会では、兼子学長の喜びの挨拶、西脇後援会長の挨拶に続き、陸上競技部の大後監督は2017年のスローガンを発表し、「誇り高き蒼に向かえば、まさに強く求めよ、やがて緑に迫り、絡み獲れ」と、打倒青山! 「来年は優勝を目指します」と気合が入っていました。

硬式野球部所に所属の浜口投手は、ドラフト1位指名で横浜ベイスターズへ入団、久々のプロ野球選手が誕生しました。本人も10勝し新人王を獲得するとアピールしていますので、応援したいと思います。

今年はおめでたい話題で幕閉けしましたが、健康に留意し、若々しく頑張りましょう。

情報交換もでき、新春にふさわしい、華やかな雰囲気での懇親会となった。

アトラクションは、幹事の嶋田順子さんの紹介で、昨年の総会でも演奏し評判の良かった、「大正琴アンサンブル・はなみずき」皆さんが駆けつけてくれ、「ルイジアナ・ママ」、「夜霧よ今夜もありがとう」、「風雪流れ旅」、「若大将・星の歌メドレー」等の演奏で会場を盛り上げた。

宴半ばとなり、小池邦夫副会長(昭和38年機械工卒)が中締め挨拶を行い、最後は、いつものような名司会者振りを発揮してくれた堀越昌樹さん(昭和62年法律卒)の音頭で校歌斉唱し、新年会は大いに盛り上がり幕を閉じました。(塩塚)

平成29年 懇親会の様子を写真で紹介します



↑左より指旗・田中・砂川・石井・西脇・佐々木の各氏



↑左より轟田・源代・●・名取の各氏



↑左より山下・長谷川・古川・田原・武井・金野の各氏



↑左より石渡・矢澤・熊沢・鈴木・佐藤の各氏



↑左より古敷谷・小池・稲垣・鈴木・萩原・久保田の各氏



↑左より武井・川瀬・古川・内藤・小池の各氏



↑左より久保田・嶋田・若林・大倉の各氏



↑大正琴を演奏する「はなみずき」の皆さんと  
コラボしてクラリネットを吹く「田原」氏

## 浦半島宮陵会 三浦半島宮陵



↑中締め挨拶をする小池氏



↑校歌の指揮をする堀越氏

### 〈記念講演〉

#### 『運命を生きる～闘病が開けた人生の扉～』 神奈川大学特別招聘教授 浅野 史郎 氏



記念講演する浅野氏  
2017年1月29日(日)  
於セントラルホテル横浜

#### ▽浅野氏より寄せられた講演要旨です

2009年6月、ATL（成人T細胞白血病）という白血病の中でも最も難治性が高く、致死性が高い病気を発症した。この病気になったのは運命であると受け止め、運命に逆らわず、運命に寄り添って生きていくというつもりで闘病生活を送った。

「運命」ということでは、私には運命との遭遇が三度あった。厚生省障害福祉課長を拝命したこと、宮城県知事になったこと、そしてATLを発症したことである。前二つを経験していたので、ATL発症を運命と受け止めることができた。

厚生省障害福祉課長になったのは、人事課長が（勝手に）決めたからである。自分が選択したのではなく、向こうから人事異動がやってきたのである。これは運命だが、私にとっては良い運命だった。障害福祉課長としてやりがいのある仕事をやらせてもらった。障害福祉は私にとってのライフワークになった。

ふるさと宮城県の知事になったのは、前の知事がゼネコン汚職で失職したからである。出直し知事選挙では、当時の副知事が本命の候補者として立候補の構えであった。それは許せないとして、厚生省の役人を辞めて出馬したら当選し、宮城県知事になってしまった。知事になる気などまるでない人生を歩んできたのに、ふるさとでの知事になってしまった。これも運命である。

そしてATLの発症。告知を受けた瞬間は動揺したが、すぐに、運命として受け入れようという気持ちに切り替わった。病気と闘うことだけ考え、そしていい患者になることだけ心がける。闘病中は、そのことだけだった。

死ぬか生きるかの病気になってしまったという悪運はそれで終わり。それ以後は、良い医者に恵まれ、いいタイミングで良い病院に入院でき、骨髄移植もうまくいったという良運続きで、無事病気との闘いに勝ってしまった。

患者から見て信頼できる医者が良い医者である。信頼感とは医師と患者との適切なコミュニケーションにより生まれる。その相互作用の中で、医師も患者を信頼することになる。骨髄移植を受けるにあたって、医者からは移植に伴う危険性（「死に至ることがある」）をわかりやすく説明してもらった。患者は説明に納得し、手術（骨髄移植）承諾書にサインをする。この一連の手続きを informed consent（「説明と同意」という。手術に伴う危険性についても、医師は丁寧に説明してくれた。私の医師に対する信頼感はさらに増した。

闘病中は、病気と闘うこと以外のことは意中になかった。今自分が立っている足下を掘ることだけに集中し他のことは考えない、「足下に泉ありだ」といって、現在の仕事に没頭していた障害福祉課長時代を思い出していた。そうしていると精神が安定する。精神的安定性を保っていたこと、それで治療がうまくいったと私は信じている。

#### 講師経歴

1948年生まれ。宮城県仙台市出身。1970年東京大学法学部卒業後厚生省入省。1993年23年7か月務めた厚生省を退職し宮城県知事選に出馬し当選。2005年11月に任期満了にて勇退するまで3期12年間宮城県知事を務める。2006年4月から2013年3月まで慶応大学教授。その間ATLを発症したが骨髄移植を受け病気から快復。2013年4月から神奈川大学特別招聘教授として法学部自治行政学科で地方自治を教える。

著書に『豊かな福祉社会への助走』（ぶどう社）、『運命を生きる～闘病が開けた人生の扉』（岩波ブックレット）などがある。

## 【参加者の感想から】

講演の前半の運命に生きるというお話が、自分の働いてきた人生と重なる部分が多く感銘を受けました。特に与えられた仕事を運命と感じ、それに集中したという部分です。

難病と闘い、これに打ち勝った過程のお話しの中に、現状を認め強い精神力を感じた。これは仕事を運命と感じ、真剣に仕事を行ってきた、その精神に通じるものでしょう。

人間として人として、毎日の過ごし方、現状を把握し真剣に対応していくべきである事について、改めての思いを致しました。

浅野先生をテレビの政治討論会等で拝見し、その時の印象とは全く違い、人に対する細かい心遣いの気持ちを持っておられる先生であるという事も改めて感じる事ができ大変うれしく思いました。(塚田尚)

## 箱根駅伝・バスケ全日本選手権応援記

今年のお正月は、神大OBにとって大変うれしく、美味しいお酒を飲むことができたのではないのでしょうか。

その一つは、関東学生陸上競技連盟が主催する第93回東京箱根間往復大学駅伝競走(通称箱根駅伝)。1月2日・3日、今年も我が「三浦半島宮陵会有志」は、「保土ヶ谷・旭区宮陵会有志」と共に、JR保土ヶ谷駅前で連日、通過の1時間前から準備をし、花の2区(鈴木健吾君/経済3年)・9区(大川一成君/人間科学3年)の応援を行ないました。当日ご参加の皆様、ご苦労様でした。

今大会総合優勝は青山学院大学で3年連続3回目。神大は総合5位(11時間14分59秒/往路6位・復路7位)で12年ぶりにシード権を獲得しました。

優勝した青学の総合タイムは11時間4分10秒で昨年より10分程落としましたが、神大との差はまだ10分以上あり、優勝を目指すには1人が1分縮める努力が必要となる。復活した神大には更なる努力を望みたい。



保土ヶ谷駅前の神大応援ポイントに於いて 2017.1.2



もう一つは、第92回天皇杯全日本総合バスケットボール選手権大会に神大男子バスケットボール部が初出場。1月3日には箱根駅伝のゴールを見届けた足で、兼子学長はじめ多くの大学関係者、OB・OGが国立代々木競技場第一体育館に、翌4日にも宮陵会の古川副会長はじめ多くのOBが大田区総合体育館に応援に駆け付けてくれました。

成績は2回戦で惜敗しましたが、この大会に出場するまでには、県学生リーグ戦で3位迄の好成績(神大は優勝)を残し、実業団・教員・クラブチームの代表が出場する県予選会で優勝し、各県代表が出場する関東総合選手権大会で優勝して出場権を獲得しました。

今年は関東2部リーグにも昇格(復帰)しました。古川副会長からは『久しぶりに熱くなりました。関係者の応援に嬉しく思います。私見ですが、ガードは良し、シュートの正確性の向上、更なる動きと選手間のコンビネーションの確保出来たら、ますます強くなると思います。頑張れ神大!』とのコメントを頂きました。更なる応援をお願いします。(塩塚)



国立代々木競技場第一体育館前に於いて 2017.1.3

## 三浦半島宮陵会同好会通信

世話人が紹介します

●ゴルフ会世話人:中川六郎(昭和44年経済卒)

メールアドレス: nakaroku@jcom.home.ne.jp



連絡先: 090-9003-2499

第31回三浦半島宮陵会オープンコンペは、2016年10月27日(木)、葉山国際カンツリー倶楽部エメラルドコースで開催しました。

暑くもなく寒くもない絶好のコンディションの下、4組15名が宮陵会会長杯争奪戦を繰り広げた。

前半、リーダーであった鈴木和夫氏を6番、7番連続バー

ディーで追い上げた萩原カ氏が、スコア39、40、ネット66で優勝した。

優勝インタビューでは「自分の40年にわたるゴルフ史上でもベスト記録で記念すべき一日となりました」と語った。

準優勝は鈴木和夫氏、3位は齋藤勁氏であった。ドラコン賞は加藤氏、紅一点の徳間小百合さん。ニアピン賞は齋藤勁氏、石井氏であった。

今回は、2017年3月24日金曜日、葉山国際カンツリー倶楽部で開催を予定します。今回の写真撮影担当は萩原カ氏が対応していただきました。次回当日幹事は、萩原氏、遠藤氏にお願いいたします。



葉山国際カンツリー倶楽部にて (2016.10.27)

●テニス会世話人:小池邦夫(昭和38年機械卒)

メールアドレス: kichiemu@mbj.nifty.com

連絡先: 090-8811-5079



私事で約半年間参加できませんでしたが、その間の皆さんの上達ぶりには目を見張るものがあります。

もともとテニス以外の、それぞれ他のスポーツで一芸に秀でている面々ですが、昨年夏も恒例の大学の富士見高原研修所で2泊3日の研鑽を重ねたこともあって、ストローク、ボレー、サーブなど基本技術の上達に加えて、試合も見応えのあるものになりました。

顧みますと、多少時間が出来るからテニスでもやってみるかと思えてまだ日が浅い当会ですが、格好の対戦相手があれば他流試合も一興です。

通常、月例会を第3月曜日の12時30分から、葉山のラベラ・テニスクラブ(福祉会館の隣)で開催していますのでご参加ください。アフターテニスも有りますよ。



●歩こう会世話人:若林秀明(昭和39年経済卒)

メールアドレス: [w-hideaki@mvd.biglobe.ne.jp](mailto:w-hideaki@mvd.biglobe.ne.jp)

連絡先: 090-3220-1479



このところお休みしていますが、小生も年齢を重ねて体力が落ち、長い時間歩くことがなかなか難しくなっています。

平坦地はともかく、山道や坂道になると負担が重く、さらに困難になってきたことによるものです。

従いまして、若い方が中心になっていただき、継続していくことを望んでいます。

●つり会世話人:塩塚定雄(昭和48年貿易卒)

メールアドレス: [s.shiozuka@aria.ocn.ne.jp](mailto:s.shiozuka@aria.ocn.ne.jp)

連絡先: 090-5581-1043



前任の故清水英樹さんから当会の世話人を引き受けて以来、1度会を催しただけで、なかなか会を開催できませんが、機会があり

ましたら、小池さんのご親戚筋である、葉山あぶすり港の船宿「与兵衛丸」をご利用いただければと思います。初心者でも、船頭さんが親切丁寧に教えてくれます。

これから陽気も良くなりますので、湘南の海で富士山を眺ながら一日ゆっくり、太公望の気分を味わいませんか。また企画しますので振るってご参加ください。

〈他地域宮陵会の紹介〉

若返った我が宮陵会

～ 横浜市保土ヶ谷・旭区宮陵会 ～

顧問 山下 力 氏 (昭和39年経済学科卒)

私たちの宮陵会は平成10年春、33人の会員が集まり発足しました。現在は約90人を数えます。平成28年度の役員改選で、新会長に杉野正さん(昭和57年貿易卒)、副会長に穴田哲夫さん(同44年電気卒)と下川洋司さん(同42年貿易卒)、事務局長に飯田泰弘さん(同52年建築卒)の各氏が就任。また、新しく女性幹事に田中文さん(平成9年法律卒)、そして大石曜子さん(平成26年人間科卒)も加わったこともあり、明るく活気も出てきています。

昨年6月の総会で杉野会長が企画した講演会には、女医のロシール・ホリスティック・クリニック青山の院長・菊

地洋子さんを招き「IPS肝細胞、体の錆び、抗酸化力」と題した講演をしていただきました。氏は、海外生活10年、米国UCLA（カルフォルニア大学ロサンゼルス校）などで勤務し、最先端医療に携わり平成14年（2002）に帰国した最先端再生医療の専門家で、その講演は高い評判を呼びました。

また、以前には15周年記念誌「みえない襷」を発刊し新会員の開拓に利用しました。夏には、横浜元町の老舗クラブ「クリフサイド」で年1回開催され、57回続いたサッポロビール会懇親会にも3回参加しました。暮れには箱根仙石原で、田中文さんや大石曜子さんも参加して9人で楽しい親睦会を開催しました。

昨年1月の箱根駅伝の応援は、2日が保土ヶ谷駅前の合同応援、3日が8区で戸塚から10<sup>km</sup>離れた権太坂下の株千代田の北野紘一顧問の経営する「千代田ビル」の前に陣取りました。



私は、北海道夕張市夕張北高（旧制夕張中学）の昭和35年（1960）卒業で、12年先輩には3期12年間横浜市長を務めた故・高秀秀信さんがおります。高秀さんは北大工学部を卒業後、陸軍士官学校も卒業。建設省事務次官を務めた方で、炭鉱の町出身。乞われて大都市・横浜の市長となつてから、その都市づくりに大変貢献されました。高秀さんの12年間の市長在任中には私も神奈川県北海道人会に入会し、多くの仲間と知り合うことができました。

2002 FIFAワールドカップを招致したことは、世界的に横浜の知名度を上げました。平成10年（1998）の第74回箱根駅伝で神大が優勝した際、磯子プリンスホテルの祝勝会に来賓として来られた高秀市長や河野洋平さんのお祝いの挨拶を、今も懐かしく覚えています。

私は、昭和39年（1964）日本勧業証券（現みずほ証券）に入社。新店舗の大阪天六、立川、大宮の3支店の開設に携わりました。京都支店には7年半、バブル経済時の有楽町支店にもおりました。また、総理となった伊藤博文や岸信介、佐藤栄作3氏の故郷・山口県熊毛郡大和近くの下松店（ハチ証券出向時）にもおりました。



愛媛県今治支店に4年在籍したせい、本年の駅伝報告会では2区の区間賞を取った笑顔の鈴木健吾選手（宇和島東高出）と海の綺麗な南国愛媛の話で昔を懐かしく感じました。また、8区で区間2位の大家委選手（京都洛南高出。同校は京都では上位の進学校）は、リオ五輪400<sup>m</sup>リレーの銀メダリスト・桐生祥秀さん（東洋大）と同じクラスだったと聞きました。本年優勝の青山学院大の記

録は昨年より4分17秒遅い11時間4分10秒だったので、上げ潮ムードの母校・神大への来年の期待は大いに高まっています。盛り上りは今年以上でしょう。

また、いまや我が家の恒例となり年12回は応援に行く横浜ベイスターズファンは、神大から新入団した濱口遥大選手がラミス監督の言うように浜の「ハマ（濱）」ちゃんと呼ばれて活躍している夢を見えています。



写真説明：昨年暮れの箱根仙石原親睦会＝左端が筆者

#### 特別寄稿

「海軍料亭 小松」に思いをはせる  
元神奈川新聞社横須賀支社長 浅田 勤 氏  
(昭和42年貿易卒)



旧日本海軍や海上自衛隊の幹部に親まれた料亭「小松」が昨年5月に焼失して1年になろうとしている。

私は神奈川新聞横須賀総局（現、横須賀支社）に勤めていた1994（平成6）年、

二代目おかみの山本直枝さんに30回ほどインタビューして『海軍料亭 小松物語』を出版している。横須賀を訪れるたびに周辺を散策するのが楽しみだったが、あの風格がある建物を見ることができないと思うと寂しい限りである。

料亭「小松」は1885（明治18）年8月、横須賀・田戸海岸で開業。前年の84（明治17）年12月、横浜の東海鎮守府が横須賀に移転、横須賀鎮守府が誕生。横須賀は、日本海軍最大の基地となった。日露戦争の際の連合艦隊司令長官の東郷平八郎、軍人・政治家として活躍した山本権兵衛、軍神と呼ばれた広瀬武夫らが小松を利用。小松はまさに日本海軍とともにあった。「海軍料亭」と呼ばれるゆえんである。

大正時代初期に田戸海岸の埋め立てが始まると、営業停止に追い込まれる。その後、米が浜通に店を新築することになった。1923（大正12）年9月、関東大震災に遭うが建物は倒壊を免れ、同年11月に営業を始めた。直枝さんは27（昭和2）年に経営を事実上任された。

海軍幹部の山本五十六や米内光政、井上成美、長谷川清らが小松を訪れた。「和氣満堂」。「長陵書」とあるが「長陵」は山本の雅号である。「松風の間」に掲げられていた。米内の「酌酒和風」や長谷川清の「静神養氣」の書は歴代連合艦隊司令長官が愛用したといわれる「紅葉の間（通称・長官部屋）」にあった。「山本さんは酒が飲めなかったが、ひとの心を和ます雰囲気があった。米内さんはお酒が本当に強かった」。直枝さんは提督たちの思い出を気さくに語ってくれた。

勝負事が好きだった山本らと明け方まで花札で遊んだという元芸者は「本当に気持ちのいい人だった」と、その人となり語った。日本は太平洋戦争への動きを加速、日独伊三国同盟締結が現実のものになっていく時代だった。

36（昭和11）年12月、山本が海軍次官、翌年、米内が海軍大臣、井上が軍務局長に就任すると、三国同盟に頑強に反対した。やがて、米内が軍事参議官、山本が連合艦隊司令長官、井上も転勤を命じられた。「左派トリオ」が海軍中枢部を去った40（昭和15）年9月、三国同盟が調印され、翌年、日米開戦に突入。「山本さんは長い戦争はだめだと語っていた」。直枝さんは、山本の言葉をはっきり覚えていた。その山本はブーゲンビル島上空で米軍機に撃墜されて戦死。戦況は悪化をたどる一方だった。

鈴木貫太郎内閣のもとで終戦工作を行ったのが米内（海軍大臣）、井上（海軍次官）、長谷川（軍事参議官）だった。「このままでは連合国との交渉母体なくなる」。彼らの認識だった。途中で、井上が退き、米内と長谷川が終戦にこぎつけた。

最後の海軍大将となった井上は戦後、横須賀・長井で75（昭和50）年に86歳で死去するまで子供たちに英語や日常生活のマナー、音楽を教えながらつましい生活を送った。この間、何回も小松を訪れるなど、直枝さんとの交流は続いた。先の火災で、彼らの横須賀での足跡は消えたが、戦争への道に反対、終戦工作に体を張った軍人がいたことを忘れてはならない。

明治、大正、昭和、平成と四つの時代を生き抜いた直枝さんは2004（平成16）年7月、95歳で亡くなった。生前、私は新潟・長岡の長興寺に眠る山本の墓参に出掛けた直枝さんに同行した。墓前で長い時間手を合わせていた直枝さんの姿が今もまぶたに浮かぶ。その折にも小松を訪

れた多くの人々に関するエピソードを聞いた。それらは『小松物語』に収めた。この本を読んだ司馬遼太郎さんは『三浦半島記』でかなりのスペースを割いて内容を紹介してくれた。本にまとめておいてよかったと思うこのごろでもある。

浅田 勤：ジャーナリスト。1967（昭和42）年神奈川大学（貿易学科）卒。著書に『海軍料亭 小松物語』（かなしん出版）、『幕末動活』（神奈川新聞社）、『鎌倉千年の歩み 段葛からのオマージュ』（歴史探訪社）。



著書の『海軍料亭 小松物語』など

## 本会HP(ホームページ)の紹介



神奈川大学三浦半島宮陵会のHPでは、会のお知らせ、会員からのお便り、終了した会合の報告等が掲載されています。

会員からのお便り、送り先は [s.shiozuka@aria.ocn.ne.jp](mailto:s.shiozuka@aria.ocn.ne.jp) です。投稿していただいた作品は、毎月中旬頃HPにアップし、ご紹介したいと思っています。

また、本会報も閲覧できるようにしてあります。現在はHPのご報告・支部開催行事から「三浦半島宮陵会報第21号発行」をクリックすると、昨年3月に発行した会報第21号(全8頁)がご覧になれます。ご覧になりたい頁を更にクリックすると拡大します。

今後とも魅力のあるHPとしていきますので、是非ご覧ください。また、連絡(お知らせ)等もご活用くだされば幸いです。アドレスは『神奈川大学三浦半島宮陵会』で検索してください。(広報担当：塩塚定雄)

